

132

2021 SPRING

美術館NEWS



収蔵品の紹介 Vol. 3

有永浩太《netz》(部分)
平成30(2018)年
ガラス
吹きガラス・モザイクガラス
64×20×12cm

熊本県立美術館所蔵 今西コレクション

肉筆浮世絵の世界 アナザーワールド発見！

中村 麻里子(副管理者)

肉筆浮世絵とは、江戸時代に庶民間に広く流行した浮世絵版画に対し、絵師が絵筆をとって描く一点限りの浮世絵のことです。希少性が高く富裕層に愛された肉筆画と、多数の複製を安価で提供する版画とは、同時期にそれぞれの進化を遂げました。

熊本市に在住した故今西菊松氏が収集した肉筆浮世絵コレクションは、多くの浮世絵師たちの作品を網羅したもので、熊本県立美術館に寄贈され、同館所蔵品のひとつの柱となっています。本展ではこの中から厳選された名品約130点を展観いたしますが、ここではその中からいくつか見どころをご紹介します。

その1：美人たちの競演 ―江戸時代の華―

出品作の半数以上を占めるのが美人図です。描かれたのは花魁、遊女、町娘など様々ですが、小袖や打掛、帯といった衣装に着目すると、四季折々の草花や幾何学文様などが取り入れられており、色彩も豊かです。また春信が錦絵を始めた頃は華奢で可憐な美人が流行しましたが、それに先行する懐月堂派は堂々としたポーズをとる女性を動きのある筆線で描きました。歌麿派のスレンダーな八頭身美人たちもいれば、英泉ら幕末の浮世絵師らは鼻筋通ったつり目であざとい表情の美人図を手がけています。時代を追って変遷していく女性表現や、ファッションや化粧の流行などに注目しながら見ると楽しみも倍増します。

その2：江戸時代のイケメンたち ―ダンディズム―

《若衆図》図2のような男性は、江戸時代初期に派手な身なりで伊達を競い、目立つ行いをして「かぶき者」と呼ばれました。大小(刀)を腰に差しつつも、龍虎に波模様を配した派手な衣装に身を包み、後ろを振り向く立姿は恰好良く決まっています。浮世絵版画において歌舞伎役者がプロマイド的な役割を果たしたように、肉筆浮世絵においても人気役者が次々と画題にされました。鳥居清信門人清忠《歌舞伎鞆当不破図》や歌川豊国《松本幸四郎仁木弾正図》など当時のヒーローがよみがえります。

その3：見立図に込められた意味 ―和漢の古典を当世風にアレンジ―

日本の古典文学や中国の故事などを当世風に置きかえ、謎解きを楽しみながらの鑑賞が江戸時代に流行しました。描かれているのは江戸時代の男女なのに、奥に様々な物語が潜んでいる「見立図」。今回の出品作の中には、浄瑠璃姫と牛若丸、小野道風、女三ノ宮、宇治川合戦、忠臣蔵、中国故事では玄宗と楊貴妃、四睡といった画題の作品があります。会場内で物語とともに楽しんでください。



図1：歌川豊国《遠目鏡美人図》(部分)



図2：無款《若衆図》(部分)



図3：楸形蕙斎《鞆田川図巻》(部分)



図4：耳鳥斎《地獄図巻》(部分)

その4：楸形蕙斎《鞆田川図》 ―お江戸ツアーの楽しみ―

《江戸一目図屏風》(津山郷土博物館蔵)のレプリカが東京スカイツリーに設置されたことが話題を呼んだ楸形蕙斎(1764-1824)は、美作国津山藩御用絵師であり、唯一といってよい岡山ゆかりの浮世絵師です。別名北尾政美といい版画や版本も手がけましたが、肉筆の鳥瞰図がよく知られています。本図は鞆田川両岸に広がる景観を爽やかな色彩で表現したもので、遊覧船に乗って楽しむかのように江戸時代当時の風情を味わえます。また蕙斎は『略画式』シリーズを手がけましたが、その図案集のような絵手本は、葛飾北斎の『北斎漫画』にも影響を与えています。次項の耳鳥斎とも共通した表現が見られるため、関連づけて展示します。

その5：The 戯画 耳鳥斎《地獄図巻》 ―こわいけどユーモラス―

近年「戯画」をテーマにした展覧会がブームですが、それらに必ずと言っていいほど登場するのがこの耳鳥斎です。豆腐屋は压榨機で絞られ、歌舞伎役者は大根をくわえさせられ、吹矢師は的にされといった具合に、13メートルの卷子に軽妙な筆致で描かれた31種類の地獄が繰りひろげられます。恐ろしいはずの地獄の数々は、滑稽で愉快に表されており、贗金師や相撲取り、飴屋など職業や趣味に応じて鬼から責め苦を受ける人々の姿が、見る人の笑いを誘います。

その6：江戸VS上方(京・大坂) ―プライドの対決―

浮世絵の歴史をたどれば「洛中洛外図」に始まります。京の都のにぎわいを描いたものですが、個々の場面をクローズアップすると歌舞伎小屋や遊里、名所での遊楽の様子が描かれています。さらに個々の人物を独立させ、美人や歌舞伎役者等をテーマとするようになったのが浮世絵です。一方江戸では浮世絵の創始者とされる菱川師宣が、絵入り本から絵を独立させて1枚摺の版画を始め、肉筆画も描きました。その後浮世絵は江戸で大流行しますが、京の祇園井特、三島上龍らのアクの強い独特な女性表現も興味を誘います。その他江戸と上方の表現の違いを見つけてみてください。

その7：流派対決 ―歌川派や葛飾派―

葛飾北斎(1760-1849)は勝川春章に師事し、はじめ勝川春朗と名のりました。勝川春章は宮川長春に学びましたので、宮川派―勝川派―葛飾派とつながります。それぞれの流派においては、例えば菱川派や葛飾派など、師そっくりに描く工房制作が繰り広げられる場合がよくありました。歌川広重に代表される歌川派VS葛飾派など、同時期に腕を競ったライバル同士の作品を見比べたり、その流派の特徴や共通点を探すのも興味深いです。

【特別展】「熊本県立美術館所蔵 今西コレクション 肉筆浮世絵の世界 アナザーワールド発見！」

(会期：2021年5月21日～7月4日)

きっず・ミュージアム・Lab／じゅにあ・ミュージアム・Lab

岡本 裕子(主任学芸員)

1960年、ミュージアムをあらゆる人に開放する最も有効な方法に関する勧告が、第11回ユネスコ総会で採択されて半世紀。障害者をはじめとする多様な来館者に対して館がひらかれているかどうかを示す「ミュージアムのアクセシビリティ」という言葉も聞き慣れてきた。一義的なスロープや手すり、授乳室や点字の設置など、ハード面での取り組みはかなり充実してきている。しかし、これらのこと以上に、来館者の意欲や来館時の心地よさなど精神的な側面は大きく、いわゆる「心理的バリアー・ボーダー」の解消は十分ではないのが現状である。例えば、子どもたちが美術館を訪れることは一般的に歓迎されているにも関わらず、展示室では来館者同士に軋轢が生じたり、監視スタッフと来館者に齟齬が生じるといった話は、「美術館あるある」の一つではないだろうか。特に小さい子どもがいるファミリー層にとって、「静かに物を見るところ」と定義されがちな美術館は、心理的バリアー・ボーダーが生まれやすい場になっていると考えられる。ファミリー層を対象とした展覧会を多くの美術館が開催するなど、その取り組みは進んでいるが、そこでも心理的バリアー・ボーダーをファミリー層は感じているようだ。そこで少し視点を変えて、ファミリー層が、段階的に美術館にアクセスが可能なることを目的としたプレ・ミュージアム事業「きっず・ミュージアム・Lab」(以下、きっず・Lab)を2018年7月からスタートさせることにした。

「きっず・Lab」の3年間と、「きっず」から「じゅにあ」に緩やかに接続していくことを目的として2020年8月からスタートした「じゅにあ・ミュージアム・Lab」(以下、じゅにあ・Lab)について振り返ってみたいと思う。

「きっず・Lab」は、幼児から小学校中学年が、遊びを通して「美術や美術館」と出会う場として毎月第3土曜日に、そして、「じゅにあ・Lab」は、小学校中学年から中学生が、思考と試行を通して「美術や美術館」と出会う場として偶数月の第2土曜日に開催している。特に、「きっず・Lab」は、個人遊びから自然発生的な集団遊びにつながるように、家ではできないダイナミックな活動になるように、また、後片付けまで楽しく!をコンセプトに実施している。「大きな絵を描こう!!」(2019年8月)¹⁾【図1】、「粘土で遊ぼう〜!」(2019年9月)【図2】、「新聞紙で遊ぼう〜!」(2019年12月)【図3、4】、「紙コップで遊ぼう〜!」(2020年2月)【図5〜7】は、広い空間とシンプルな素材を用意し、きっずが体全体を使うことができる、ダイナミックな遊びの場として企画した。きっずたちは、4×8mの紙やバケツいっぱいの絵の具、500kgの粘土、1000枚(約125日分)の新聞紙、また、600個の紙コップを、数字という文字媒体ではなく、自分の手の平や足の裏、体全体で素材に触ることを通して体感した。新聞紙と紙コップを使ったLabでは、一人遊びから参加者全員で遊ぶ集団遊びへと遊びの変化が生まれ、遊びの延長線で片付けができたのも興味深かった【図3〜7】。

また、当日だけでなく、「Labに来るまでのワクワク感」や「Lab終了後の+a」が生まれる仕掛けも企画時に心掛けていることである。「持参物:砂糖、塩、片栗粉、小麦粉」(2020年きっず・Lab<8月>しゅわしゅわ〜♪じゅわじゅわ〜♪グラデーションで遊ぼう!)など、持参物やタイトルからLabの内容が予想できない



図1:「大きな絵を描こう!!」(2019年8月)



図2:「粘土で遊ぼう〜!」(2019年9月)



図3、4:「新聞紙で遊ぼう〜!」(2019年12月)

1) 「こども☆ひかりプロジェクト」が開催している「ミュージアムキッズ!フェア」のプログラム。2019年8月当館で実施の際は、鬼本佳代子氏(福岡市美術館主任学芸主事)を招聘。

(しにくい)のも特徴だ。わからないからこそ生まれるワクワク感をLabに来るまでの数日間、きっずと保護者で楽しんでほしいと思っている。

コロナ前後で、Labのプログラム内容や参加者数、また実施する場なども大きく変化せざるを得なかった。参加者全員で場や素材・材料、道具を共有して行うダイナミックな活動は、コロナ禍では安心安全の担保が難しい。机の上での個人活動、そして少人数で複数回実施するというコロナ対策を講じて2020年7月から「きっず・Lab」は再開した。また、「じゅにあ・Lab」はコロナ禍でのスタートとなった。コロナ前との大きな変化は、Lab実施後、きっずやじゅにあの反応が保護者からダイレクトに届くようになったことである。きっずやじゅにあ、その保護者との距離がとて近くなったことに驚いた。「家に帰って、台所にあった重曹とクエン酸でも試してみました」(2020年きっず・Lab8月)、「家に帰ってからタンブラーを完成させ、早速牛乳を入れて飲んでいました」(2020年きっず・Lab10月)、「毎日ナイトランプにして喜んでます」(2020年きっず・Lab12月)など、家に帰ってからのきっずの様子が、保護者からダイレクトに届くようになった。そして、コロナ禍でスタートした「じゅにあ・Lab<8月>“えのぐ”って何?」²⁾【図8】実施後には、保護者から「家に帰って、クサカベの会社で製造したお土産のウルトラマリンとLabでつくったウルトラマリン、そして学校で使っている絵の具(藍色)を紙に塗って、それぞれの粒子を顕微鏡で観察していた」【図9】という話が届いた。また、「家ではできないことが縦横無尽にできるのは、やはり楽しいのですね。8月の“グラデーションで遊ぼう”は、特にインパクトが大きかったようです。小麦粉や塩、砂糖といった、普段遊んだらぜったいに怒られそうなものが“工作”の材料になり、好きなようにつくってみることが推奨されるのは、子どもにとって驚きだったのでしょう。これ以来、行動の幅がちょっと広がったような気がしています。美術館と子どもの距離が近いのは、本当にありがたいことです。その結果、保護者も美術館との距離が近づいたようです」というメールが、数か月経過してから届いた。Lab実施後のきっずやじゅにあの様子を聞けることは、素直に嬉しい。顔と顔がみえる、一人ひとりときちんと向き合える少人数での実施は、人と人の距離も、そして、人と美術館の距離も縮めてくれたようだ。

コロナ禍で、人と人が双方向で行う美術館教育プログラムを中止せざるを得なくなり、美術館活動が展覧会のみになっていく中、「美術館は展覧会を見るためだけのところ?」という疑問が以前にも増して大きくなってきた。美術館の利用者を展覧会観覧者としてのみ考えがちであるが、「このためにある」と目的を限定するのではなく、市民一人ひとりにとって美術館とはどんなところなのかという視座で、美術館活動の可能性を今後も考えていきたいと思う。

2) 小川美菜子氏(株式会社クサカベ技術開発部次長)を招聘。子どもたちが普段当たり前に使っているチューブ入りの絵の具を題材にしたワークショップ。ホワイトボードや瓶に入った数々の粉、そして乾燥させた豚の膀胱まで登場。参加じゅにあは、絵の具の素材や色の名前のルーツなどの話を真剣に聞き、アラビアガムを混ぜて透明水彩絵の具のウルトラマリンを1人1本作って持って帰る。



図5、6、7:「紙コップで遊ぼう〜!」(2020年2月)



図8:「“えのぐ”って何?」(2020年8月)



図9:左から学校の絵の具、Labで作った絵の具、クサカベの工場で作られた絵の具

玉島の柚木家と父子孫三代の絵画

橋村 直樹(学芸員)

穏やかな瀬戸内海に注ぐ高梁川の河口に江戸時代より干拓された玉島は、同川の中流にあった備中松山藩の飛び領地として発展した港町である。港の拡大整備にともない商人が移り住んで問屋街が形成され、高瀬舟や北前船が数多く出入りし、人と文物が交流・交易する水運の要衝として繁栄した。明治に入っても紡績工場ができたことから数多くの帆船が入港し、瀬戸内航路の重要港として活況を呈した。この地で、江戸中期頃より松山藩主板倉家に代々諸役として仕えて奉行格にまでなり、その旧邸宅・西爽亭でも知られるのが旧家・柚木家である。

柚木家からは諸芸に秀でた人物が多く出た。幕末の松山藩士・熊田恰が多数の部下の命を守るために西爽亭で自刃した玉島事変(1868)の時の当主であった柚木玉洲(1825-1901)は、好んで墨竹画を描き、晩年には茶道を嗜んで藪内流の皆伝も受けた。その妹・柚木玉粹(1834-1891)は、鎌田呉陽や中原国華について画を学び、小田郡西浜(現笠岡市)の久我松韻に嫁して和歌も学んだ女流画家である。玉洲の養子の柚木玉邨(1865-1943)は、東京農林学校(現東京大学農学部)を卒業後、銀行の経営や農業技術の指導など実業面で活躍するとともに、玉島に来遊した清の画人・胡鉄梅に若い頃から指導を受けて南画を学び、中国に渡って宋元の絵画も研究し、さらに詩書にも優れる諸芸に通じた文人であった。玉邨が養子になった翌年に玉洲に生まれた実子で、叔母の玉粹が嫁した久我家を後に継いだ久我小年(1868-1938)は、兄・玉邨と同じく胡鉄梅に南画を学んだ人物で、築庭家としても知られる。さらに玉邨の子の柚木久太(1885-1970)は、20歳で上京して岡山出身の洋画家・満谷国四郎らに学んだ後、フランスに渡ってアカデミー・ジュリアンでジャン・ポール・ローランスに師事した洋画家で、帰国後は文展や帝展など官展系の美術展で活躍して県内外の洋画界の発展に尽力した。久太の長男・柚木祥吉郎(1919-2005)は、東京に生まれ育ち、東京美術学校で藤島武二に学びながら、学外でスイス人画家フェルディナント・ホドラーの高弟コンラッド・メイリに師事した洋画家で、戦後帰郷してからは岡山大学やノートルダム清心女子大学で教鞭をとって後進の育成にも励んだ。また久太の次男・柚木沙弥郎(1922-)は、東京に生まれ育ち、戦後、大原美術館に勤務して民芸運動と出会い、その頃から現在に至るまで染色家として第一線で活躍している。

当館では、こうした柚木家の芸術家たちの中から、流麗な水墨画を残した柚木玉邨と、象徴的な雲の浮かぶ清涼な風景画を残した柚木久太、そして人物のいる夢の中の情景のような幻想的な風景画を残した柚木祥吉郎という父子孫三代の画家に注目する展覧会「柚木玉邨・久太・祥吉郎—柚木家三代の絵画と精神」を開催する(2021年5月21日~6月27日)。3人それぞれの画業を明らかにしながら、柚木家三代に通底する時代を超えた精神性を探るとともに、江戸時代より商港として発展した玉島の豊かな文化風土の重要性を再確認できるこの展覧会にご期待ください。



柚木家旧邸宅・西爽亭



柚木久太《湖雲一帯》1963年 油彩・カンヴァス 岡山県立美術館蔵

展覧会スケジュール

4月
April

4月2日|金|—5月9日|日|

【特別展】 『ねないこだれだ』誕生50周年記念 せなけいこ展

絵本作家せなけいこ(1931-)は、1969年子育てに奔走する中、37歳で絵本作家としてデビュー。おばけや妖怪、うさぎなどをモチーフに貼り絵手法で生み出された独創的な絵本は、世代を越え、多くの親子に愛され、読み継がれています。本展は、代表作のひとつ『ねないこだれだ』の誕生50周年を記念し、約300点の絵本原画や貴重な資料により作家せなけいこの創作の全貌を紹介するものです。

*最新の展覧会情報やその他開催予定のイベントについては岡山県立美術館HPをご確認ください。
<https://okayama-kenbi.info>

5月
May

4月3日|土|、5月2日|日| 10:30- / 13:30-

WS 「すうじのつばやきを つくろう!!」

講師 西森そのの氏(アーティスト)、
湯浅亮氏(warisasi / デザイナー)
会場 研修室(各回定員先着10名) *事前申込制
参加費 500円
申込詳細や他イベント情報は展覧会特設サイトをご覧ください。

6月
June

5月21日|金|—7月4日|日|

【特別展】 熊本県立美術館所蔵 今西コレクション 肉筆浮世絵の世界 アナザーワールド発見!

肉筆浮世絵とは、江戸時代に庶民間に広く流行した浮世絵版画に対し、絵師が絵筆をとって描く一点限りの絵画のことです。希少性が高く富裕層に愛された肉筆画と、多数の複製を安価で提供する版画とは、同時期にそれぞれの進化を遂げました。本展は今西コレクションの中から厳選された約130点を展示し、美人画や役者絵など江戸文化とともに花開いた肉筆浮世絵の魅力余すところなく紹介します。花魁や遊女、町娘など美人たちの競演や、ダンディな歌舞伎役者、四季折々の行事や遊び、名所風景など見所満載です。

5月21日|金|—6月27日|日|

【岡山の美術展】 柚木玉邨・久太・祥吉郎 —柚木家三代の絵画と精神

収蔵品の紹介 Vol. 3

有永浩太《netz》
平成30(2018)年
ガラス
吹きガラス・
モザイクガラス
64×20×12cm



有永浩太(1978-)は、大阪府堺市に生まれ、倉敷芸術科学大学を卒業後、繊細なレースガラスの手法による《gaze》で、第8回「I氏賞」奨励賞を受賞した。本作からは、緻密なモザイクガラスを連ねた純白の「網」を、吹きガラスで瞬時に形へと導く確かな技術と作者の息遣いが感じられる。(古川)

「雪玉展」の頃に

守安 収

「館ニュースの締め切りは？」と尋ねると、数日前でしたとのこと。あわててパソコンの前に座った次第。その段階に至って、随分前に担当者がメモを手渡してくれていたことを思い出しました。「雪舟と玉堂一ふたりの里帰り展(雪玉展)」が始まり、忙しくて遅れてしまったというのは体裁を繕う話に過ぎず、単に忘れていただけなのです。もの忘れを加齢のせいにし、頭の中(脳)も外(髪)も薄くなってきたと自虐(事実)ネタを発しても、30年来通っている理髪店の主人に髪のことを指摘された時には、ちょっと辛いものがありました。それなのに、99歳で亡くなった父と比べると、まだまだ大丈夫と慰める自分があることに情けなさが募ります。▼展覧会への評価も同じなのでしょう。館側は頑張ったとか、素晴らしい内容だとか甘めに発信しがちですが、受け手である来館者がそれを認めるかどうか肝心かなめのところ。「雪玉展」はいかがでしたでしょうか？作品それぞれがもつ力に依存しているだけかもしれませんが、来館者の数パーセントの方なりとも館の試みに共感してくださると嬉しいですね。▼「雪玉展」オープン翌日から岡山大学の集中講義を延3日間計16時間にわたって当館で実施しました。その一環として学生が任意で選んだ作品を前に、なぜこれに関心をもったのか、どこに惹かれたのかを各人がプレゼンテーションした後に他の受講生との意見交換を行ったのですが、彼らが語る内容が多様にして的を射ていることに驚き、私は彼らへのこれまでの働きかけを改めねばならないと反省するばかり。なにしろ、大学生の来館者数は本当に少ないのですから。でも、彼らは宝の山だったのです。



〒700-0814 岡山市北区天神町8-48
TEL 086-225-4800 FAX 086-224-0648
Email kenbi@pref.okayama.lg.jp
<https://okayama-kenbi.info>

交通案内 JR岡山駅後楽園口(東口)から
・徒歩約15分
・路面電車 東山行「城下」下車徒歩約3分
・宇野バス 岡山後楽園バス「岡山県立美術館」下車すぐ
・岡電バス 藤原団地行「天神町」下車すぐ
開館時間 9:00—17:00 (入館は16:30まで)
「美術の夕べ」実施日と夜間開館日は19:00まで(入館は18:30まで)
休館日 月曜日(休日の場合その翌日)／年末年始／展示替え期間中

※一部の公共交通機関では新型コロナウイルス感染拡大に伴い、一部運休している場合があります。ご利用の際は事前にご確認くださいませようお願いします。

編集後記

中西ひかる

今年の冬は寒波の影響でかなり冷え込みましたが、風もやわらいで少しずつ暖かくなりはじめました。当館では4月より、絵本作家・せなけいこ氏の代表作『ねないこだれだ』誕生50周年を記念する展覧会が始まります。独創的な絵本の原画や貴重な資料が展覧され、会場には子どもたちにも楽しんでもらえるような仕掛けも登場します。新型コロナウイルスが流行し、一年以上経った今でもまだまだ油断はできませんが、来館される皆様に少しでも安心してお楽しみいただけるよう引き続き対策に努めてまいりますので、春のお出かけにご利用いただけたらと思います。